

# アウトドア業界から進めるサステナブル

## 見せかけのサステナブルやめませんか、が響いた

—— BIOTECHWORKS-H2を立ち上げたやまぎんの存在を知ったきっかけは？

フットマーク株式会社に在籍し、水に関するアパレルから水陸両用ウェアブランドを立ち上げたときにサステナブル展で見たやまぎんのZERO-TEX「見せかけのサステナブル、辞めませんか？」、これが響き探していたものにぴたりと当てはまりました。そこから機能性の高いZERO-TEXとBIOTECHWORKS-H2をアウトドアブランドに使用したいと思い、春夏を使用してみて好評だったので今は秋冬も採用したいと考えています。

—— やまぎんのサステナブルプロジェクトを自社製品へ

サステナブルな製品は進んで会社に取り入れて行きたいので、いろいろな企画を考えているが、どうしてもコスト高がネックになりがち。その点、BIOTECHWORKS-H2やZERO-TEXは社会的注目度が高いので、コストの問題以上に企業メリット、商品価値向上へつなげられると考え、展示会でのラインナップに採用しました。

—— BIOTECHWORKS-H2もZERO-TEXとのストーリー性から大きな期待を感じる

ZERO-TEXの医療用ガウンから始まったストーリー性に興味を持ってくれたお客さんも多いです。特に展示会で使用した撥水機やデモ動画を見て、機能性を高く評価し、大きな反響をいただきました。そこから購入にいたる方も多くいて。しかもこれらの製品が再生可能エネルギーに生まれ変わるなら、アウトドア業界に新しい風が吹き込みます。

—— ZERO-TEXからBIOTECHWORKS-H2へどのような構想をお持ちですか？

バックグラウンドからしても、アウトドアの会社さんに売り込むのが一番ではないでしょうか。例えばアウトドアの会社が運営してるキャンプ場で、廃棄となるテントなどの用品をBIOTECHWORKS-H2で回収しゴミを罪悪感なく置いていける。今度はそこでZERO-TEXの新商品を購入して、サーキュラーなサステナブルを続けられる仕組みにしていけたらいいなとさらなる可能性を感じます。

—— ビジネスモデル

展示会に製品を出したとき、バイヤーの口から名前が出てくる程、ZERO-TEXの知名度は十分にあったことを実感しました。これからはBIOTECHWORKS-H2と絡めてアウトドア業界で知名度が上がれば強みになると思うんです。アウトドアブランドと自社ブランドの差別化を図る大きな役割を果たしてくれるのがZERO-TEXとBIOTECHWORKS-H2だと確信しています。

スイミングウェアを主としているフットマーク社から2018年独自の視点と感度でアウトドアブランド、フットマークナチュラルを始動。感性と洞察力、MD力をバランス良くブランディングに組み込み、新たな販売シェアをつかみ取るクリエイティブディレクター。特技は飛び込み営業（スイミング関係企業だけに…）



山と川の境界線を遊ぼう  
アウトドアから「想像以上の価値」を届ける

フットマーク株式会社  
ライフスタイル事業部  
藤家 友紀さん